

隣接商店街とのコラボレーションによる まち創出事業

元町通り商店街振興組合

鳥取県米子市

ポイント

アーケードの撤去を機に、隣接商店街との連携でコミュニティ活動の強化と新たな街づくりに挑む

JR米子駅から徒歩3分ほどの商店街。かつては、バスセンターが併設された百貨店が近隣にあるほか、米子高島屋に続く街として周辺地域からも大勢の来街者があり大変賑わった。4年前に築40年を超えるアーケードを撤去して街の外観を一新。これを機に植樹やベンチの設置、下水関係の整備など商店街の環境整備を進めるとともに、イベント活動を活発化させて地域住民とのコミュニティ連携を強化。住みたい街、住みやすい街を目指して中心市街地の新たな活性化に取り組んでいる。

商店街情報

所在地：鳥取県米子市日野町162番地
地域の人口：149,298人 65,979世帯(米子市)
商店街の種類：地域型商店街
組合員数：18名
店舗数：29店(衣料品、日用雑貨、飲食・食料品、サービス業など)
TEL：0859-22-3634 FAX：0859-32-6388
URL：<http://motomachi88.webcrow.jp/>



商店街の風景

商店街の概要と近年の環境変化

鳥取県米子市の中心市街地に位置する元町通り商店街(通称：元町サンロード)は、全国でも珍しい“葉の木”がある公園通り型の商店街として知られている。もともと米子市は、古くは北前船の寄港地として、近代になっては山陰で最初に鉄道が開通するなど交通の要衝として栄えてきた。当元町通り商店街は、松江と姫路を結ぶ信仰の道・参勤交代の道として知られる“出雲街道”に面しており、古くから人々の行き交う場所で商業も盛んであった。さらに、昭和30年代は、近隣にバスセンターを併設した大丸デパートもあり、米子駅に至近なことから“ここに来れば何でも揃う商店街”として近郊からも多くの人々が訪れていたが、バスセンターの移転に加え、郊外型大型商業施設の進出や交通環境の変化等で閉店する店舗が続き、徐々に活気を失っていった。

また、昭和40年代に設置されたアーケードは築40年を経過し、電気代や修理費等の多額の維持費を必要とするほか、雨漏りだけでなく落下物の発生等も危惧しなければならない状況があり、商店街を通学路とする小中学校関係者からは“商店街は暗くて危ない”との声も出るなど、猶予ならざる状況となりつつあった。

そこで、“一旦原点に立ち返って新しい街づくりをスタートさせよう”、“商店街のイメージを変えて次世代が商売できる街にしよう”との考えから平成23年にアーケードの撤去に踏み切った。

さらに、「アーケードを撤去すると確実に来街者が減る」という専門家のアドバイスを得て、街区内にあるパティオの管理を市より任されて住民に開放。休憩用ベンチの設置、健康増進を意味してナンテン、クロモジ、サンシュなど15種類の葉の木を大型の鉢を使って植樹したほか、店舗の営業上制約となっていた下水関係の整備も行って商店街全体



出雲街道の目印

の環境整備を実施。「薬木と小道のあるまち、風かほる元気な街」をテーマに、住民の協力のもと新たな街づくりを目指した。

商店街のイベント活動等については、一足早くアーケードを撤去した隣接する「法勝寺商店会」と連携し、店舗の前で戸板に品物を並べる「戸板市」や「賑わい市」などを実施。アーケード撤去後は、街区の清掃には住民の方にも参加してもらいようになり、地域との連携も一段と深めることができた。

こうした状況を背景に、平成26年度に地域商店街活性化事業を実施し、商店街の新たな魅力作りのための様々なイベントの開催や、先進商店街の取り組み状況等を視察し、今後の街づくりの一助とした。

さらに、健康教室や防災に関する啓発・普及、街並み緑化推進事業等を通じ、住民が街づくりに積極的に関与してもらうためのコミュニティの強化と地域力向上を狙った。



アーケード撤去工事

助成事業の概要とその成果

組合では、アーケードの撤去を商店街の新たなスタートと捉え、商店街の魅力の創造と情報の発信、地域コミュニティとの連携による地域力の向上等を目指して助成事業に応募した。事業の実施に当たっては、隣接する法勝寺商店会との協働での運営とし、商店街関係者だけでなくアドバイザーや行政、関係団体等の協力を得て「街づくり会議」を設置。毎週月・水に定期的に会合を重ね、事業運営だけでなく商店街の魅力づくり等についても検討を行った。

【実施した主な事業】

(1)地域力向上事業

地域に住まう高齢者は“地元の宝”と考え、住民の健康増進を目的とする「健康教室」を開催。太極拳教室、まちなか薬膳教室、サンロードの薬木教室、メイクアップ教室等を開催して100名を超える参加があり、地域の人々の交流が進んだ。

また、地域防災の普及・啓発事業として、消防署や自治会の協力の下、AED講習会、防災講演会を開催するとともに、地域防災アンケートを実施し、住民の防災に対する実情を探り組合の対応策の基礎としたほか、地域の住民とともに「まちなか緑化運動」を推進した。

(2)商店街魅力創出調査事業

それぞれのイベントに合わせて、商工会議所、米子市中心市街地活性化協議会及び市役所の協力を得て、地域の消費者が中心市街地の商店街にどのような機能や役割を求めているか等についてニーズ調査を実施し、全体で230を超える回答を得た。その結果、イベントに関しては来街者の満足度は比較的高く、新たにグルメ系のイベントを期待する声があったほか、防災関係では安心して暮らせるまちづくりのために地域コミュニティの重要性が確認できた。

(3)商店街のまち創出事業(集客イベント事業)

商店街の集客イベントとして、「まちなか納涼祭」「ダラズ夜市」「まちなか音楽祭」「農水産物収穫祭」「しめ縄づくり」等多彩なイベントを、商店街との交流のある団体や他の地域機関などと連携して実施。商店街が地域の人々とともに新たにスタートしたことを印象付けることができた。

組合として、従来にない様々なイベントに取り組んだ結果、近隣住民との相互理解が深まり、連携して地域を盛り立てようという機運が高まった。また、従来のイベントに比べて遠方からの来街者が増えており、商店街の認知度の向上にも寄与した。

さらに、お客様や地域のニーズを把握することができ、今後の事業活動の方向や有効な販促活動の基礎資料とすることができた。



商店街に植樹した薬木

助成事業以降の商店街活動

当組合では、助成事業終了後もその成果を踏まえ、事業予算や運営体制等の制約がある中で近隣の商店街と連携しつつ、集客促進やコミュニティ機能の強化のための事業を積極的に展開している。事業の運営については、毎週水曜日に開催される「定例街づくり会議」が主体となって担当するほか、隣接する法勝寺商店会の会議にも参画して情報の共有を図るとともに、連携してイベント活動を展開することにより相乗効果を生み出している。

(1) イベント活動

組合では、元町パティオを使用するなどして、毎月何らかの行事の開催を心掛けている。具体的には、戸板市、にぎわい市、夏の売り出し、夜の戸板市、がいなまつり(地元の夏祭りイベント)、近隣商店街との協力による歳末大売り出し、等のイベントを開催している。

また、観光協会の協力を得て「小路めぐりスタンプラリー」や「まちなか観光イベント」等のまち歩きイベントを開催し、より多くの人に街を知ってもらう工夫を講じている。

(2) 商店街マップの作成

アーケードを撤去し、歩道の整備や薬木の植樹、ベンチが設置されるなど環境が整った商店街に来て頂きたい、さらに、ここで店を開きたいという方が一人でも現れて欲しい、という願いを込めて商店街のPRマップを作成(3,000部)して配布した。作成に当たっては、組合員だけでなく自治体の職員や自治会のメンバーも加わり、街歩きからスタートして、町の特徴を確認しながら行った。

(3) フラワー・ハンギング・バスケット教室

ペットボトルを活用して草花の寄せ植えを作り、これを商店街の中に吊り下げる「フラワー・ハンギング・バスケット教室」を開催しており、住民からは気楽にだれでも参加できて楽しめるという好評である。

また、作成したフラワーバスケットを街区に吊り下げることによって、街のイメージアップに大変役立っている。

(4) 無料レンタサイクル事業

平成28年度より、公共機関である路線バスで来街された方の足の便を確保するため、組合員である自転車店の協力を得て、無料のレンタサイクル事業を開始した。来街されたお客さんが鳥取医大等の他所へ行く場合や、ビジネスマンの近隣への移動等に重宝してもらっている。

(5) 空き店舗対策

隣接する「法勝寺商店会」において実施したチャレンジショップ事業に参加していたマッサージ屋さんが、元町通りで開業することができた。法勝寺商店会に良い物件がなかったため、隣接する商店会において探したもので、商店街同士の連携の結果による成果であり、店舗の借り上げ等に関しても商店街が協力する等の手伝いをした。



フラワー・ハンギング・バスケット



レンタサイクル



元町パティオと法勝寺電車

自治体等との連携の状況



米子市では、中心市街地の活性化を図るため、住民や民間事業者、関係団体など多様な関係者の参画と連携により、中心市街地における都市機能の一層の増進、地域社会及び経済活力の向上を総合的に増進するための「中心市街地活性化計画」を策定し、その実現に取り組んでいる。商店街については、居住人口の減少や空き店舗の増加等の課題がある中で、『人が集まり、歩いて楽しめ、元気に暮らせる中心市街地』の形成を目指して様々な支援策等を実施している。

具体的には、商店街内での新たな創業を支援する「チャレンジショップ事業」、出店の促進に必要となる設備費や地域文化・人材等を活かした商店街づくりを支援する「賑わいのある商店街づくり事業」、街中の遊休不動産の活用を促進して新たな事業者の掘り起こしをする「まちなかデベロッパー事業」、パティオを使ったイベント活動等の「パティオ広場使用」への助成等を実施しており、元町通りにおいてもこうした支援策を有効に活用してもらっている。



商店街の今後の戦略

長い間アーケードのある商店街として親しまれてきたが、思い切ってアーケードを撤去して新しい街づくりをスタートさせた。その結果、環境の整備が進んで街が明るくなった。住民の方も清掃活動や樹木の世話等を手伝ってくれるようになり、コミュニケーションが取れるようになったことが大きな成果であると考えている。

また、薬木の効果で“商店街に来ると癒される”というイメージが定着したほか、街歩きのためのマップも作成して、これを活用してもらっている。

今後は、元町通りの名物を作り、街をPRしていきたい。以前、地元の食材を活用したカレーパンの販売を行ったが、このような取り組みを強化したいと考えている。また、先頃商店街の中に、身障者の方が働く地元食材の食堂が開店したが、この店と連携して地域の活動を盛り上げていきたい。当店の2階はコミュニティスペースの機能があり、地域の人を対象とした寺子屋(街ゼミ)なども充実させていきたい。

今後の商店街は、イベントだけでなく地域全体の活性化に役立つ活動が必要であり、新しい人が来て商売をしたい、子供たちが住みたい、と思うような街にしていきたい。特に、新しい人が開業するためのお手伝いが重要であると考えている。

～ 仕掛け人 ～

元町通り商店街振興組合
理事長 遠藤 至弘



取材を通して明らかとなったこと

少子高齢化等による地域の人口減少等により、地域全体のパフォーマンスが低下している中で、中心市街地に位置する商店街の役割が問われている。商店街の活性化は商業機能の強化に止まらず、地域コミュニティの向上とともに地域に在住する人々の生活の質の向上に寄与することが求められている。

こうした点から見た場合、当商店街では、まずアーケードを撤去して安全性と明るさを確保し、街区に薬の木を植えて癒しの空間を演出。さらに来街者の確保策として、毎週水曜日に開催される「定例まちづくり会議」が中心となって、毎月何らかのイベントを展開して地域の人々にアピールしている。また、“高齢者はまちの宝”と捉え、健康維持等のための事業を展開して社会的要請にも応え、市が進める“住みたいまちづくり”にも寄与している。一方、商業機能の強化等については、新たな創業の支援等も行っており、次世代を担う人材の育成等も視野に入れている。

こうした活動を、隣接する商店街との協働で進めており、組織間連携による知識と資源の集積や事業の運営方法等は他の商店街の参考となるものである。